

平成28年第3回田原市教育委員会定例会会議録

1 開会 平成28年3月11日 午後2時00分

2 閉会 平成28年3月11日 午後4時05分

3 会議に出席した委員

花井 隆教育長、横田 威委員、金原真人委員
山本明子委員

4 会議に欠席した委員

土井真紀江委員

5 会議に出席した職員

教育部長

前田和宏

教育部次長兼図書館長

豊田高広

教育総務課長

鈴木 努

学校教育課長

鈴木欽也

文化生涯学習課長

鈴木洋充

スポーツ課長

大羽耕一

文化生涯学習課主幹

増山禎之

教育企画室長

三竹雅雄

教育企画室主任

清水綾子

6 議事日程

別紙のとおり

田原市教育委員会第3回定例会議事日程

日 時 平成28年3月11日（金）
午後2時00分
場 所 北庁舎2階 200会議室

- 1 会議録署名者の指名
- 2 教育長報告事項
- 3 議題
 - (1) 田原市文化財保護審議会委員の任命について
 - (2) 平成27年度一般会計教育費補正予算について
 - (3) 田原市スポーツ推進計画について
- 4 報告事項
 - (1) 教育委員連絡報告事項
 - (2) 田原市議会第1回定例会について
 - (3) 学校再編について
 - (4) 教育委員会表彰について
 - (5) 小中学校への寄附について
 - (6) 市史編さんについて
 - (7) 東京オリンピックサーフィン競技誘致について
- 5 その他

教育長

開 会 午後 2 時 00 分

御多用のところ御出席くださいます、ありがとうございます。

土井委員から欠席の連絡がありました。

ただいまの出席者は 4 名であります。定足数に達していますので、平成 28 年田原市教育委員会第 3 回定例会は成立いたしました。

これより開会いたします。

それでは、会議規則第 13 条第 2 項の規定により、会議録署名者の指名をさせていただきます。

今回の署名者として、金原委員と山本委員の御兩名を指名させていただきますので、どうぞよろしく願います。

それでは、議題に先立ち、教育長報告事項をお願いいたします。

2 月 17 日、総合教育会議、教育委員会、その後、伊良湖岬中学校統合検討委員会に出席しました。

伊良湖岬中学校統合検討委員会、2 月 22 日の泉中学校再編検討委員会については、後でまた事務局から説明があります。

2 月 18 日、三河部都市教育長協議会が豊田市で開催されました。ここでは「あいちの教育ビジョン 2020－第三次教育振興基本計画－」や特別支援教育の話がありました。

2 月 23 日、校長会議・研修会で、最後の校長会がこの日に行われました。

2 月 29 日から田原市議会本会議の初日でした。私のほうで市長の施政方針に続いて、教育方針をやらせていただきました。本会議の詳細については、教育部長からの報告が後ほどあると思います。

3 月 1 日、4 日と、高校、中学校の卒業式がありました。私のほうでは福江高校、野田中学校の卒業式に参加しました。高校も含めて非常に静かな雰囲気の中で、穏やかな卒業式でありました。高校は、とても寒い日で、中学校は暖かい日で、1 週間の中で大分乱高下があったと思います。

少し戻りますが、3 月 2 日から一般質問が連日あり、いじめについての代表質問を受けています。

きょう 3 月 11 日で、この中の時間帯で黙とうというようことも考えております。あれから 5 年という日で、それぞれ復興の様子が伝わってくるのですが、なかなか厳しい状況というように思います。

3 月 15 日、野田中学校の閉校記念式典。

3 月 16 日は、委員長・教育長会議の予定ですが、この日が予算の議決がありますので欠席の予定です。

3 月 18 日、小学校卒業式。それから、3 月 31 日に臨時会、教育委員会表彰ということで、先ほど横田委員も出席していただいて選考会を行いました。その後、退職教職員の辞令交付式もあります。

4 月 1 日、辞令交付式など例年どおりのスタイルです。

4月8日、第1回委員長・教育長会議があります。

3月、4月から、また慌ただしく動いていきます。皆さん方に御協力いただきながらやっていきたいと思っています。

私からは以上です。皆さんはどうでしょうか。

では、御質問もないようですので、教育長報告事項は終わりました議題に入りたいと思います。

初めに、議案第8号 田原市文化財保護審議会委員の任命について議題といたします。

事務局の説明をお願いします。

文化生涯学習課主幹

議案第8号 田原市文化財保護審議会委員の任命について、次のページに田原市文化財保護審議会委員の候補者の名簿がございます。

お名前は小林一弘さん、片浜町。生年月日は昭和22年3月18日でございます。分野としては、地理学と歴史をやっておられます。

再任で、2期目に入るわけでございますが、任期は平成28年4月1日から平成30年3月31日です。

小林先生は文化財の仕事だけではなくて、ただいま市史の編さんの仕事も担当しておりまして、人物、知識ともに非常に有能な方でございますので、再任をお願いするものでございます。以上です。

教育長

事務局の説明が終わりました。御質問等がございますか。

では、御質問等もないようですので、お諮りいたします。

議案第8号 田原市文化財保護審議会委員の任命について、原案どおり可決することに御異議ございますか。

(「異議なし」と言う者あり)

教育長

御異議なしとのことですので、議案第8号につきましては、原案どおり可決いたしました。

次に、議案第9号 平成27年度一般会計教育費補正予算について議題といたします。

事務局の説明をお願いします。

スポーツ課長

スポーツ課から説明させていただきます。

前日も、3月議会の補正予算がありました。今回はさらに補正の追加が出たものです。内容は、国の地方創生事業に伴って、平成27年度事業で、まち・ひと・しごと創生総合戦略の活性化事業の予算について、平成28年度当初予算で計画していたものですが、それを平成27年度事業として前倒して、3月議会で補正をしまして、繰越明許費として実質は平成28年度にやっていくわけ。国の100%補助事業ですので、国の事業の年度の区切りが平成27年度になるため、今回前倒して補正をして対応するものでございます。

内容は、サーフィンの街実現に向けた調査委託業務です。サーファーや移住者にアンケートをとって、サーフィンのまちを実現していくための現状把握をしながら、さらに、今後の政策転換を図っていくた

	<p>めの基礎調査です。</p> <p>それから、国道42号線の旧赤羽根町と旧田原町、旧赤羽根町と旧渥美町の境に観光の看板があったのですが、この看板をサーフィンのサーフタウンのイメージができる絵にデザイン替えをしていくものです。二つの事業で、まず506万2,000円の補正となります。</p> <p>さらにスポーツ大会支援事業（地方創生）で、今年度は全日本選手権という新しい大会が来ます。それで200万円。さらに、毎年やっているサーフィン世界大会補助金で300万円。この事業について、500万円を国の事業に乗せて補助対象事業にしていこうということで、この二つの大会を支援する補助金の500万円を補正の対象としています。</p> <p>以上です。よろしくお願ひします。</p>
教育長	<p>事務局の説明が終わりましたが、御質問等ございましたら、お願ひいたします。</p> <p>私から1点お願ひします。</p>
スポーツ課長	<p>国の地方創生加速化交付金の全体金額はどの程度ですか。</p> <p>国の事業としては、田原市が該当する全体の予算が7,000万円ぐらいあって、そのうち私どもの事業としては、この1,000万円強をサーフタウン構想関係の事業として活用を予定しております。</p> <p>ほかにはシティプロモーション事業で、田原市をPRするものに活用予定ということです。</p>
横田委員 スポーツ課長	<p>サーフィンの街に関係した看板が出るのですか。</p> <p>ロングビーチの入り口に看板をつくります。</p> <p>看板は、ロングビーチの信号の大松屋食堂の反対側のブロンズ像の横につくる予定です。</p>
山本委員	<p>あかばねロコステーションには、横断幕をつけたいと思っています。場所は検討中です。</p> <p>サーフィン世界大会300万円とサーフィン全日本選手権の200万円。これは、どういうことに使ってほしいとか、こちらの要望はあるのですか。</p>
スポーツ課長	<p>全体事業は5000万円ぐらいの大会です。使用目的としては、大会設営費などを想定しています。</p> <p>ロングビーチで毎年やっている大会の、海にアングルを組んで、ジャッジルームとか本部エリアとか、そういうものをつくっていくものですから、そういった設備や、当然車が多いものですから、ガードマンをあちこちに配置し、駐車場、道路の配送関係ですね。そういった経費にも充てますし、世界大会になると、国際ジャッジが必要なものですから、審判員を外国から呼ぶ経費もあります。</p>
金原委員 スポーツ課長	<p>賞金は出ますか。</p> <p>アマチュアの大会では、賞金は出ないです。</p> <p>サーフィン世界大会ではプロの大会をやっていますので、賞金は出</p>

教育長

ていますが、賞金の部分は補助の対象外となっています。

では、議案第9号 平成27年度一般会計教育費補正予算について、お諮りします。原案どおり可決することに御異議ございませんか。

(「異議なし」と言う者あり)

教育長

御異議なしとのことですので、議案第9号につきましては、原案どおり可決いたしました。

次に、議案第10号 田原市スポーツ推進計画について議題といたします。

事務局の説明をお願いいたします。

スポーツ課長

事前に冊子と概要版を配付しました。今回は、概要版で説明させていただいて、御意見をいただきたいと思っております。

今年度は、策定委員会を5回開催し、3月9日、最終案をつくらせていただきました。その間、パブリックコメントも実施しており、今回の田原市スポーツ推進計画には、7人から延べ21件の意見が出ていましたので、3月9日の策定委員会で諮るなどして、進めております。

概要版を見ていただいて説明したいと思っております。

まず一番上の計画の策定趣旨、背景。

田原市は、少子高齢化、地域社会の空洞化、生活習慣病の増加等の課題に対応する中で市民のスポーツ環境の充実、健康づくりが重要な課題となっています。こうした点を踏まえ、本市が有する課題と本市が行うべきスポーツ推進のための事業を明らかにして、市民、地域団体、民間事業者、行政が連携して事業を進めていくために田原市スポーツ推進計画を策定するものです。

計画の期間が平成28年度から平成37年度の10年間を想定し、前半5年間をアクションプランとし、5年後にその評価を行い、状況に応じた見直しを行う予定です。

次に、田原市のスポーツの現状、課題です。

スポーツの機会の充実ということで、まず子どものスポーツということですが、スポーツの機会が充実しているところであり、一方で、スポーツが好きな小学生の割合が全国よりも低い。これはアンケート調査の結果であり、スポーツをする人とスポーツをしない人の二極化が進行している。シニア世代では、逆にふえている。障がい者については、そういった環境をつくる必要があります。

それから、やるだけではなくて、見る、応援する、支援する、そういったスポーツも大事ということで、ライフステージに合わせた現状課題に取り組んでいくという形になっております。

それから、スポーツ組織、人材の充実ということで、基本となっている体育協会やスポーツ少年団の団員数が減少傾向であると。

施設においては、3町合併している中で、数字を単純に拾うと、東

三河5市の中では人口割の施設面積が飛び抜けて高い。細長い半島の形状を考えると、拠点的なスポーツ施設まで距離が遠い住民も多くなっています。

それから、スポーツによる地域活性化としては、田原市の特性を生かした、サーフィン、トライアスロン、駅伝ということで、そういった大会を通じて多くの人が訪れている。

また、小川泰弘投手や、尾川とも子さん、金子大樹選手、トヨタ自動車陸上長距離部等、田原市にゆかりのある全国的な選手、有名な選手が活躍しています。

それから、東京オリンピック大会の開催にかかわって、今回、サーフィン会場の誘致などの機運の中でスポーツ振興をしかけていく必要があるというところが、現状、課題となっております。

それから、基本理念としましては、田原市では、市民がスポーツを通じて豊かな心をはぐくみ、健康で幸せに暮らせるよう、いつでも、どこでも、誰でもスポーツに親しむことができる生涯スポーツ社会を実現していくということです。こういった理念で進めていきたいということです。

スポーツ課ができた当初からの「スポーツ大好き 田原」をスローガンにして、田原市民を初めとして、市を訪れる人々がみんなでスポーツを楽しむまちを目指し計画を推進していきます。

それから、田原市が考えるスポーツの捉え方として、ここでは、ただ単に競技スポーツだけではなくて、体を動かすこと全体をスポーツと捉えていきます。

最後に、農作業の諸作業についても、その効果に着目し、スポーツ活動と同様に尊重していきます。これも実はパブリックコメントで指摘をもらっており、農作業をたくさんやっているということも尊重していきたいという声が出たものですから、この辺を表現させてもらっています。

最終ページ。基本施策ということで、スポーツの機会の充実。これは子ども、大人、シニア、障がい者、それから見る、支援するスポーツというライフステージに応じたそれぞれの段階における取り組み方という形で分けて施策に取り組んでおります。

それから、スポーツ組織、人材の充実については、体育協会、スポーツ少年団などの充実を図って、ボランティアをしっかりと活用して活性化を図り、スポーツ推進委員、スポーツ普及員の活動の充実をしていきます。

それから、施設の整備、充実につきましては、今後のスポーツの在り方を考えていきたいということで、正直、ファシリティ・マネジメントの話が、先ほど言った現状の中で、他市と比べて相当面積的には多いということもあるのですけれども、半島の形状からすると、や

はり、それぞれの地区に拠点的な施設も必要ではないかという面も考慮しながら検討して、施策の充実を図っていきたいと考えております。

それから、スポーツによる地域の活性化ということですが、サーフィンのオリンピック競技会場、それから国際大会の誘致を含めて、サーフィン、トライアスロン、自転車、こういった地域の特色を生かしながら、合宿誘致活動もしていきたいということです。

スポーツ課だけではなくて、スポーツに関連する、先ほどのように体を動かすという視点にしていますので、健康づくりの面もありますので、健康課、子育て支援課とも連携しておりますし、国際大会の誘致では政策推進課となり、各課にわたって動いていただきながら、窓口を表示し、計画に全体が盛り込んであります。お気づきの点がありましたら御意見を言っていただければと思います。

最後に、今言ったアクションプランの中の各課の取り組みの中で、例えば64ページに、アクションプランの事業主体で、経営企画課、文化生涯学習課という表現がありますが、機構改革に伴い、経営企画課が企画課、文化生涯学習課が生涯学習課に変わります。このように機構改革に伴う訂正がありますが、御了承いただきたいと思います。

教育長

説明が終わりました。御質問等がございますか。

横田委員

概要版は、推進計画ができたと同時に配付予定ですか。

スポーツ課長

策定委員の皆さんから概要版をつくってほしいという声があった中でつくったもので、説明用の資料で市民に配るものではないです。市民へ配るものについては、新年度に改めてつくります。

教育長

「策定します」を、「策定し、実施していきます」とか、そういう言葉になれば、また違うのだけれども、語尾も気をつけながらやってください。

ほかに御質問がありますか。

横田委員

7ページ、一番下の資料。ほとんど平成26年度の資料が入っているのだけれども、ここだけが、なぜ平成25年度の資料ですので、これは平成26年度の資料でいいのかなと思いました。資料が変わること言葉の内容が変わるのかな。

スポーツ課長

多分、毎年調査しているものではないかもしれないです。

学校教育課長

データとして文部科学省から、既にまとまったものが戻ってきています。

横田委員

そうすると、この中身の内容がまた変わってくるのですよね。

スポーツ課長

多分、私どもが調べた段階では、これが新しかったと思います。内容が変わってくるかもしれないので確認させていただきます。

横田委員

もし直せるものだったら、新しいほうが良いと思う。

スポーツ課長

ただ、策定委員会も終わっているので、大きくは変えられないのかなという面もあります。誤字脱字ぐらいなら事務局サイドの話だけれども、資料を入れかえるということは難しいかなとも思います。

横田委員 少し古い資料が入っていたので、新しい資料のほうがいいのかなど
思いました。

スポーツ課長 続いて、11ページ。市のスポーツイベントで、市と教育委員会の主
横田委員 権の中で、愛知県中小学校体育連盟が絡んでいる大会もあるし、体育
協会が主催の大会もあるのではないですか。

スポーツ課長 体育協会主催のものは、ここには載せていません。

横田委員 やはりここでは、たくさんの大会をやっているというイメージを出
したいところと思う。

スポーツ課長 一応、仕切りの中では、体育協会主催の大会まで入れると、いろ
ろな大会でいっぱいになってしまうものですから、あくまで、ここは
教育委員会主催のものを掲載していますので、御理解いただきたいと
思います。

横田委員 体育協会レベルの大会というと、例えば陸上競技協会だけでも大会
を幾つも持っているし、野球協会も幾つも持っているし、それを載せ
てしまうと、本当にたくさんになり過ぎてしまうものですから、基本
的に市の教育委員会主催のものということで拾っています。

横田委員 17ページ。主なスポーツ施設、赤羽根文化会館の農業者トレーニン
グセンターは、休館ですか。

スポーツ課長 休館ですが、市の行政財産ではあります。維持管理はしています。
現時点での状況ですので、そのような表現になっています。

横田委員 そうすると、体育館も入るよね。

スポーツ課長 休館なのに、なぜここに載っているのかなと思いました。

横田委員 ごもつともだと思うのですけれども、これも本当は施設の整備計画
のようなところで表現できればという話が策定委員会の中で出たので
すが、今、ファシリティ・マネジメントの話では耐震改修もしない施
設と位置づけされている中で、違った形の複合施設にしていこうとい
う方向があるだけです。6万人規模の市町村においては施設を持ち過
ぎだというファシリティ・マネジメントの観点から、減らしていかな
ければいけないというところがあるのですが、この計画の中では、推
進計画だから、減らすという表現はしないと位置づけしております。
今後の展開で検討していきますとなっていますけれども、そこはうた
っていませんので、御理解いただきたいと思います。

横田委員 次、21ページ。以前、教育委員会の中で、子どもと成人とシニアの
年齢の定義が話題になりました。この子どもは小中学生のことです
か。ただ、5ページの人口推移では、年少人口0歳から14歳となっ
ています。成人は何歳からですか。

スポーツ課長 高校生より上ですね。

横田委員 部活動やスポーツ少年団で小中学校のスポーツは、すごくやってい
るけれども、高校生向けにストリートバスケットなどがあるといいな
という気がして考えていました。子どもって小中学生のことですか。

成人に高校生が入るのかなと、少し疑問になりました。

スポーツ課長 一応、そういう観点でパブリックコメントも答えていますし、何も問題ないと思います。

横田委員 高校生がサーフィンをやるとか、何かできるといいかなと思う。
あと、営業しているスポーツ施設との関係がどのようなかというの、ある程度、市として考えていく必要があります。

スポーツ課長 当然、今回の策定メンバーには、アイレクススポーツクラブ田原の社長も入っていただいています。

横田委員 23ページ。先ほどの補正予算で、サーファーとか移住者に対するアンケートを実施すると聞きました。ぜひ移住者の方にもれなくアンケートをとってほしいと思います。
サーファーの人たちはバーベキューをやりたいと言うのですが、なぜできないのかと聞かれることが多くありました。

スポーツ課長 要は、海が汚されてしまうので、サーフィン協会の自主的な申し合わせによります。基本的には、港務所が管理している海岸エリアで火をたくことは多分禁止だと思うので、バーベキュー程度ならという話でみんなやるので、ただ、その後、残飯や火の跡などで海が汚れるので、地元のサーフィン協会を中心に自主的な申し合わせにより、バーベキューは禁止にしており、バーベキューをやっている人に声をかけています。

横田委員 その辺がどうも、サーファーが不満に思っているようです。

スポーツ課長 それは十分聞いています。

横田委員 なぜかという、私が地元の夏祭りなどで屋台を出していると、サーファーの人たちがよく言うのです。

スポーツ課長 声は十分聞いています。休暇村伊良湖や仁崎の海岸などバーベキューが出来るところでやってもらいたいと思っています。

横田委員 サーフィンでまちづくりを推進していくということですが、市として、そういうものを全面的に禁止ばかりしていいのでしょうか。

山本委員 横田委員としては、そういう場所をつくってほしいということ。

横田委員 そうです。現実的に片づけをしていないというのも事実です。

スポーツ課長 アンケートで一番聞きたいことは、田原市に定住してもらい、田原市の人口をふやしていこうということを市が目指していますので、そういう視点で質問もつくっていくと思います。どうして田原市を選んで定住したのか。あと定住するに当たって一番の課題について、仕事がない、仕事を探すのに大変など、そういうところを質問していくことが想像できます。

教育長 アンケートの対象は、市外から訪れるサーファーと現在の移住者ですか。

スポーツ課長 そのような予定です。

教育長 できるだけ移住者の声が拾えるようなアンケートにしてほしいとい

う委員さんからの御意見だと思う。狙いに沿って、できるだけサーフタウンを検討している中でやっているところなので、また、どういう項目になるかわからないけれども、御意見を受け入れながら進めてください。

横田委員

たくさんコラムが出てきているのだけれども、とてもいいコラムと、ただ資料を説明しているだけのコラムがあり、そのあたりは少し考えたほうがいいかなと思う。

スポーツ課長

ピンピンコロリという話をどうしても入れてほしいという声がありました。

だから、そういうものをコラム欄におさめさせてもらっているの、御理解いただきたい。

確かに整理の仕方は、いろいろあると思います。視点が違うと医療費削減の話も出まして、スポーツをすれば、これだけの医療費が減った、何割減ったという話もあって、その辺も文部科学省が発表しているというようなところへもってきて、1、2割の医療費の削減効果があったというのが発表されているので、そういうものを載せて、コラム欄を活用しております。

教育長

そのほか、よろしいでしょうか。

では、議案第10号 田原市スポーツ推進計画について、原案どおり可決することに御異議ございませんか。

(「異議なし」と言う者あり)

教育長

御異議なしということで、議案第10号につきましては、原案どおり可決いたしました。

続いて、報告事項に入ります。

初めに、教育委員連絡報告事項について、委員の皆さんからの報告をお願いいたします。

それでは、横田委員からお願いします。

横田委員

2月29日、田原市の本会議の第1日目、市長の施政方針と教育長の教育方針について傍聴させていただきました。

私もそうですが、得意分野になると話し方が早くなって、苦手な分野になるとゆっくりになるというところがありました。市長も得意な分野になると、早くしゃべって、苦手な分野になると原稿をじっくり読んでいて、初日の傍聴の方も少なかったです。

次に、3月2日、一般質問の傍聴にまいりました。傍聴者がたくさんいました。

少し疑問に思ったのが、いじめのことについての一般質問で、文教厚生委員会の委員ではなく、廣中議員が質問していました。一問一答方式で質問していました。

3月4日、泉中学校の卒業式へ行きました。全員で33名でした。五、六年後には十何人だということでした。校区の偉い方々の子どもが、

教育長
金原委員

人数が少ないとみんな言っていて、危機感はあるようでした。
以上です。

では、金原委員、お願いします。

3月4日、赤羽根中学校の卒業式に出席させていただきました。久しぶりに涙のない卒業式を経験しました。意外とシビアな子が多いのかなという感じで、女の子でも大半は泣くかなと思って期待していましたけれども、ほとんど泣かずに式も終わりました。

学校教育課長

その後、市会議員の辻さんに呼びとめられまして、児童クラブは学校を使わせてくれませんかという質問を受けましたので、学校教育課長につなぎはしておきますとお答えしました。その辺は、どうですか。

今、田原中部小学校と赤羽根小学校は学校を使用しています。

ほかの学校でも、基本的に学校利用が優先ですが、余裕教室がある場合には積極的に活用していただくという考え方です。最近よくあるのは、余裕教室ができたと思ったら、特別支援学級で使いたいということで、なかなか余裕教室がないというのが現状です。

教育部長

来年度、野田小学校の体育館をつくるときに児童クラブ専用の部屋をつくる予定です。

教育長

いわゆる特別支援学級用のつくりではないので、若戸小学校は1クラス、例えば六連小学校のように、今度2クラスまで行ってしまうと場所がないです。

教育総務課長

小規模校ほど、場所がないです。

教育長

山本委員、お願いします。

山本委員

私は3月4日、伊良湖岬中学校の卒業式に行きました。行くのに30分以上かかったので、大分遠くまで来たなという感じでした。

地域の方がたくさん見えていても、知らない人ばかりでした。

あとは古川議員も出席されていました。

前回の定例会以降、体調を崩しまして散々でしたけれども、インフルエンザもすごく多いということですよ。

教育長

はい。今、ピークを少し過ぎたぐらいです。

学校教育課長

学級閉鎖が何件か出てまいりました。

山本委員

そろそろインフルエンザもおさまってくるのではないかと思います。何とか、こういう時期を過ぎると、温かくなって、桜が咲くころには、みんなが幸せに、元気に小学校入学、中学校入学できるといいなと思いました。

教育長

少し私のほうで報告させていただきます。中学校における進路指導で、この間のように広島で進路のことでの自殺や、名古屋市で地下鉄に飛び込むという事例がありまして、学校教育課で市内の中学校を対象に、保護者も含めて、進路指導におけるトラブルはどうですかということ聞いてもらったところ、それについては0件でした。細かいのはどうなのかわかりませんが、おおむね穏やかな卒業式を見てもら

っている中でも、比較的、市内の中学校は、いじめも多少はあるにしても、深刻なものもなく、進学状況も、きょう試験が全部終わりますけれども、欲張らなければ何とか入れる状況にありますので、私としては教育委員会も、高校までも含めて、田原の子たちをしっかりと見ていく必要があると強く思っている状況です。

廣中議員も、いじめについては、本人の強い思いで一般質問されています。

田原市でいじめはあってはいけないので、こうやって質問させていただきまして。命が失われるようなことがないですよねということ強く言われていますので、もちろん私たちとしても、教育の中で子どもの命を失うなどということは本当にあってはいけないことだし、この広島の場合のように、指導の仕方も間違っているけれども内容も間違っているというか、非常にこれは教育界に大きな衝撃を与えるゆゆしい問題と考えています。

そのほか、いかがでしょうか。

金原委員

1点おたずねします。例の広島の事件です。田原市の場合、例えば非行歴があった場合は高校に推薦を出さないことがあるのですか。

学校教育課長

恐らく学校ごとに若干違うかなと思います。市内で統一するようにはなっていなかったと思います。

教育長

次に、田原市議会第1回定例会についての報告をお願いいたします。

教育部長

2月29日に3月議会が始まりまして、先ほど横田委員が言われましたけれども、教育長の教育方針がございまして、それについては、後ほどごらんいただきたいと思います。

教育方針に対しての代表質問が彦坂議員から4点ありました。

その4点のうちの1点が、学校再編に対する認識ということで、それに対する答えは、伊良湖岬中学校、泉中学校は、平成28年度の早い時期に決定していきたい。それから、その他の学校については、計画の見直しを視野に入れてしっかりと取り組んでいくというようなお答えをしております。

2点目、中高連携について、どういう考えかという質問でありまして、教育長のお答えとしては、教育内容を魅力あるものにするよう、県と協力していくというようなお答えをしております。中高連携につきましては、学校再編とは別物だというような言い方もしております。

3点目、いじめ・不登校についてということで、答えとしては、昨年、いじめ防止方針を策定し、少しずつ改善が図られているということで、今後も、よりよい効果を行っていくようなことであります。

4点目、学力向上、教員の多忙化についての質問で、これに対しては、ことし平成28年度に校務支援システムを入れていく。これだけでは改善することはできませんけれども、改善すべき点は改善していきたいということです。

教育長
教育部長

それから、学力問題につきましては、授業の在り方、教員の力量向上を目指して真剣に取り組むというお答えをしております。

これが、代表質問、教育方針に対する質問でございます。

それから二つ目が、廣中清介議員。いじめ防止への取り組みについてです。今、愛知県小中学校PTA連絡協議会の顧問です。

愛知県小中学校PTA連絡協議会会長も3年前にやっていました。

一つ目の質問、小中学校におけるいじめの現状と課題について、平成24年度が小学校で71人、平成25年度が小学校で65件、中学校で46件、平成26年度が小学校172件、中学校52件、平成27年度が12月末までで、小学校が55件、中学校が75件という回答です。

課題への取り組みについて、解決までに時間がかかるというのが課題であるということです。

それから3番目として、いじめを生まない人づくりということで、これは、小さなサインを見逃さずに素早い対応をしてほしいとのことで、各学校においては校内いじめ・不登校対策会議があるということで、人づくりとしては、ふるさと学習を基盤としたキャリア教育を充実していこうと答えております。

3人目が、河邊正男議員。2点ありまして、1点目がハーフマラソン大会の開催についての質問で、これに関しては、公道を利用することになり、交通規制、ボランティア、そういった課題が多いので今は考えていないというお答えです。

2点目、赤羽根文化広場周辺の山を生かしたクロスカントリーコース、宿泊・トレーニング施設の整備についての質問です。赤羽根文化広場では、昨年ウォーキングコースで大会をやったのですが、それをランニングコースにするよう、今、検討しているということです。それから、宿泊トレーニング施設については考えていないというようにお答えをしております。

以上が、代表質問、一般質問の内容と答えでございます。

教育長
山本委員

議会の定例会について、質問がありましたらお願いします。

文教厚生委員会との懇談会でも河辺議員さんが教員の多忙化について言われていました。

教育長

多忙化については、毎回、質問があるかもしれませんが。学校としても、このままでは先生の健康被害になってしまうので、部活動等も学校である程度抑えてもらわないといけないかもしれません。

山本委員

例えば学校訪問へ行くときに立派な資料をつくってくださる。資料の作成にどれぐらい時間がかかったのか。その資料は必要なものかなという感じがして学校にお尋ねしたら、先生が授業を組み立て、授業をする練習だということでした。でも、やはりあれをつくるのに時間がかかるだろうなというのは、ずっと引っかかっていました。

教育長

学校訪問のような機会がないと、普段の中ではできないことです。

横田委員
学校教育課長

あれが一つの勉強になっています。

ただ、ベテランの先生で、例えば授業のノウハウもわかっている人は、すらすらできるのですけれども、まだ経験の浅い教員だと、一生懸命考えることが力量を高めるための重要な場でもあります。

山本委員
横田委員
教育長

それが大事なことなのですね。

はい。私たちが行くことが大事なことです。

小学校でも、月曜日から金曜日まで過密になった部分は否めないかなと思います。

山本委員
教育長

多忙化については、少し議論が必要かなと思います。

ありがとうございました。

続いて、学校再編について、お願いいたします。

教育企画室長

最初に、野田中学校統合準備委員会だよりをごらんください。

第8回野田中学校統合準備委員会を2月8日に開催し、これが最終回です。

3月15日に開催される閉校記念式典や、今までの議論のまとめとして、路線バスを利用した中学校への通学方法について。最終下校時刻にあわせて、下校時に1便バスを増便します。路線バスの利用にあたっては、定期券を配付して対応するなどの確認をしたものです。

3月15日の閉校記念式典には、金原委員も出席していただけるということですので、お願いします。

閉校式典は午後1時30分から行われて、途中、PTA総会をはさみ、15時20分からは校区主催の中学校思い出を語る会が開催されます。

次に、伊良湖岬中学校統合検討委員会だより第3号です。

2月17日、第2回教育委員会、同日の夜、第3回伊良湖岬中学校統合検討委員会を開催いたしまして、伊良湖岬中学校の統合についての方針の変更案を了承していただきました。

中学校の統合時期につきましては、平成27年度末までとしているものを平成28年度中として協議を進めていくことを了承していただきました。

その中で、いろいろな意見がありました。予定どおりがよかったというような人もいましたし、やはり、もう1回よく話を聞いてほしい、1年協議したことについて結論をある程度出すべき、今後について話し合うべきだなどの意見が出ておりました。

こうした内容につきましては、2月19日の文教厚生委員会にて議会にも報告をしてあります。

3枚目は、泉中学校再編検討委員会だよりです。第3回泉中学校再編検討委員会を2月22日に行いました。

こちらでも、同じ方針変更案について検討していただきまして、泉中学校の再編についても、平成28年度も引き続き協議をしていくということでしたので了承していただいております。

裏面にいろいろな意見が出ております。今後、どのように意見をすり合わせていくのかということ、泉地域からも、伊良湖岬小学校の建設は予定どおりに間に合うのかということ、泉中学校は統合するということで保護者も一生懸命話をしてきた、これからどうなるのかをはっきりしてほしいという保護者の意見もありました。

そういうことを踏まえて、今、行われている議会でも、教育長から、伊良湖岬中学校の統合先については、平成28年度中も引き続き協議していくということですが、平成28年度中の早い時期に決定していきたいと説明しています。

9月、10月ぐらいの早い時期には決定していくために、今後、4月、5月には検討委員会を行って方向性を出して協議をしていこうと考えております。以上です。

教育長

学校再編について説明がありました。いかがでしょうか。

平成27年度中では決め切れないとのことで、もう少し議論しながら、何とか平成28年度前半戦で決められたらと考えております。

中学校の統合にあたっては、いろいろな準備があると思いますので、準備をしっかりとやるように、1年間しっかり聞かせていただきましたので、大体の感じはつかめたかなと思いますので、何とかいい着陸地点をと考えています。

続いて、教育委員会表彰についての報告をお願いします。

教育総務課長

教育委員会表彰の選考については、先ほど、本日13時から、ここで選考委員会をいたしましたので、その結果について報告させていただきます。

昨年までの社会教育表彰を改めて、今年度からもう少し範囲を広げ、例えば小中学生の部活動等についても基準を変更して表彰を実施してまいりたいと思っております。

選考委員会につきましては、教育長を委員長といたしまして、教育委員会から横田委員に代表として出席いただきました。教育委員会内部の部長と各課長、学校長の代表として六連小学校の神谷校長に出席いただきまして、選考させていただきました。

選考につきましては、市の各担当課から、文化、スポーツ等の団体等に推薦の依頼をし、2枚目にあります規定の取り扱い等に倣って推薦依頼をした方々が、3枚目にあります推薦者名簿一覧のとおり、全部で29の個人と団体で、一部重複されている方が見えますので、実質人数としては64名の方、そのうちで小中学生が9組で25人でした。

この方々の功績等につきましては、記載してあるとおりの説明等は省略させていただきたいと思いますが、この方々の表彰については、異議なく、可決させていただきました。

今回初めての教育委員会表彰で、いろいろな御意見もありましたので、例えば高校生の表彰等につきましては、なかなか拾い出しができて

	<p>ないということもありますし、文系と体育会系との選考基準も少し考えたほうがいいのかということもありました。</p> <p>今回の表彰では、この推薦者名簿のとおり実施させていただきたいと思います。この選考で決定されました方々については、後日、案内を差し上げまして、表彰式につきましては、3月31日、毎年为社会教育表彰の表彰式のかわりに、午前11時から講堂で実施したいと思います。委員の皆様方については、教育委員会と教職員の退職者の伝達式もありますので、それに引き続いて御出席をお願いしたいと思います。</p> <p>教育委員会表彰については、以上です。</p>
教育長	<p>今までの社会教育表彰から対象範囲を広げて、教育委員会表彰という形になりました。</p> <p>横田委員に代表で出ていただきまして、御意見をたくさんありがとうございました。</p>
金原委員	<p>高校生は、市内の高校でなくても、市内出身ならいいということですか。</p>
教育総務課長	<p>市内在住、在勤者を対象としています。</p> <p>例えば、トヨタ自動車の陸上部でしたら、在勤になります。</p>
横田委員	<p>体育協会や陸上競技協会が推薦してくるので、それを受けて表彰対象者になっています。</p>
教育総務課長	<p>それぞれの団体の基準になるかと思いますが、そこは、こちらで勝手にというわけにもいきませんので、それも含めて見直し等は考えていきたいと思っています。</p>
教育長	<p>今回は、このルールでやらせていただきました。平成27年度の教育委員会表彰ということで、推薦を受けた人を本日審査しました。</p> <p>それでは、表彰式についても御予定をお願いいたします。</p> <p>続いて、小中学校への寄附についての報告をお願いします。</p>
教育総務課長	<p>お願いします。お手元に平成27年度教育関係寄附一覧ということで、今年度分、平成27年度分の一覧がございます。</p> <p>今回は、最後の11番目の1件でございます。平成27年11月25日にアルスタイルデザイン山田政嗣様から、小学校18校に教育振興のために、書籍・季節誌しづく別冊「百肖～ひゃくしょう～」18冊を寄贈いただきました。</p> <p>これは、表紙とあとがきをつけてございます。新聞にも掲載されておりますので各学校に配らせていただきました。</p> <p>本年度につきましては、以上です。</p>
教育長	<p>小中学校への寄付について、いかがでしょうか。</p> <p>特にないようですので、次に、市史編さんについての報告をお願いします。</p>
文化生涯学習課長	<p>市史編さんについて報告いたします。</p> <p>平成28年度発刊の予算を議会に上げておりますので、編さん状況の</p>

報告をしたいと思います。

趣旨は、具体的には、田原・赤羽根史現代編です。

こちらですが、資料1の取り組みの経緯中段を見ていただきますと、渥美町史現代編は、平成17年の合併までの渥美町時代を取り上げて、既に発刊されております。

一方で、田原町史と赤羽根町史につきましては、昭和40年ごろまでの記述にとどまっているので、この田原町と赤羽根町部分の、田原市が合併する前までの部分を、市史として編さん、記録、発刊をしていきたいという事業でございます。

発刊までの取り組みとしましては、発刊を平成28年12月ごろ予定しております。

資料3につきましては、これまで旧渥美郡3町で発刊されてきた各町史の状況の一覧でございます。

裏面をごらんください。

現在予定しております田原・赤羽根史現代編の紙面構成です。

第1章の行政区域の変遷に始まりまして、第11章の渥美半島の自然と災害まで予定しております。

全体として、おおむね1,200ページ程度で、製本の状況としましては、渥美町史の現代編と同等の製本を行いまして、CD-ROMつきとしていく予定でございます。

以上です。

教育長

説明が終わりました。御質問等がございますか。

次に、東京オリンピックサーフィン競技誘致についての報告をお願いします。

スポーツ課長

新聞、メディア等にも出ていますけれども、市においても、庁舎の横断幕、懸垂幕等で発信しているところです。

サーフィン競技会場誘致の今までの経過について、一部、赤羽根中学校区の役員には、この資料も配らせてもらう予定をしておりますし、4月の校区コミュニティ協議会の理事会にも報告する予定ですので、事前に教育委員会に上げさせてもらったものです。

昨年の12月18日、田原市長が愛知県知事に対し、オリンピックサーフィン競技会場の誘致に向け支援をお願いに行きました。それに対して愛知県知事は、愛知県で開催されるなら光栄であり、前向きに取り組みましょうということで、それを受けて12月22日には、愛知県知事と市長を初め、国会議員、市の正副議長も同行して、東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会、スポーツ庁、東京オリンピック・パラリンピック担当遠藤大臣、日本サーフィン連盟理事長の4か所、サーフィン会場としてのポテンシャルの高さをしっかりアピールしてきました。

1月に入って、今度は市長と県の担当で、日本オリンピック委員

会、要は強化選手をつくったりするところですが、この準備室長ということで、部長でもある中森さんが豊川市出身の方ということもあって、やはり御支援いただこうと行ってきました。

中森さんからは、オリンピックは東京だけのものではない。全国で盛り上げていきたいと。自分も田原の蔵王山には遠足で行ったことがあるという話もしていただけて、結構身近な感じで対応していただきました。

それから、2月に入って、同じく組織委員会に会場誘致ポスターを提出し、横断幕、懸垂幕、のぼり、フラッグ等の掲出予定とデザイン画を提出しました。オリンピックレガシーとして、選手村跡地をサーファー移住者向け住宅として活用するサーフタウン構想を説明しました。

以上です。

教育長

東京オリンピックサーフィン競技会場誘致の経過を話していただきましたが、いかがでしょうか。

これにつきましては、市長も全力投球で頑張っているところです。

御質問等もないようですので、次にその他で、何かございますか。

図書館長

田原市図書館の元気はいたつ便が、「認知症の私と輝く」大賞というものを受賞いたしましたので御報告します。

元気はいたつ便については、全国の五つの取り組みの一つとして、「認知症の私と輝く」大賞2016というのを受賞したのですが、市内の15の介護施設を巡回するサービスということで実施しております。

この賞は、みずほ情報総研が厚生労働省からの受託事業として実施しておりまして、先月27日に東京都内で開催されたフォーラムにおいて取り組みが表彰されました。

表彰された事業は、認知症の人が暮らす社会を構築していくための新たなアイデアを社会で共有し、ヒントとなるという事例として認められました。

これは平成23年度から実施している事業で、デイサービスやグループホームなどの介護施設を図書館員とボランティアと一緒に巡回して、回想法というように呼ばれる、昔の写真や生活用具を見て、それをめぐって体験したことをいろいろ語り合うことで脳にいい刺激が来る。それで、心が元気になるというような心理的なアプローチを実施したり、レクリエーションを行ったり、図書館の団体貸し出しを行っております。全国にも類似するものがほとんどないユニークな事業ということで、文部科学省、国会図書館、日本図書館協会、いろいろなところから、今、実際に視察や取材が入っております。

この取り組みについては、三、四分の映像が間もなくインターネットで公開される予定にもなっております。詳しくはパンフレットのコピーをごらんいただければと思います。以上です。

教育長 平成23年度から地道に実施していた活動がこうやって認められて、ぜひ、これが発信源になって、さらに膨らみがある実践につなげていただければと思います。

図書館長 昨日、報道資料を配付しました。ちなみに、生活用具については、かなり博物館から借りておまして、それをいろいろな施設へ持っていくということで、渥美郷土資料館や民俗資料館の資料の有効活用にもなっているということも申し添えておきます。

教育長 連携した、いい活動ではないかなと思います。

教育企画室長 そのほかに、どうでしょうか。

委員のところにも、この二つの資料が配付してありますので、また後でごらんになってください。市民館、PTA、学校、それぞれ配付しますので御承知おきください。以上です。

教育長 教育委員会の二つの事業の報告書がありますので、またごらんいただけたらと思います。

山本委員 ほかにいかがですか。

山本委員 2月24日の新聞で、福江高校と福江中学校が共同で事業をするということが掲載されていまして。どのような内容ですか。

学校教育課長 中高連携については、平成28年度から本格的に協議を進めて、連携型中高一貫校という形で、福江中学校と福江高校の在り方を協議して、例えば教員が授業を行き来したり、あるいは子どもたちがともに学ぶ部分をつくったり、あるいは入試も、それ専属の入試制度が入ってきたりということも想定されます。

山本委員 ただ、実は、まだこれから、具体的にどのようにしていこうかということ、私たち教育委員会も入って、高校と話をしながら進めていくというような部分で、この前、新聞に大きく出ていたのは、そのことも少し視野に入れながら、まちへ子どもたちが出かけて行って、学習活動をやっているの、ちょうど福江中学校と福江高校と一緒に連携している活動があったものです。

山本委員 中学生が福江中学校から福江高校に行って授業を受けることはありますか。

学校教育課長 そこまではないと思います。教員が、例えば高校の先生が中学校に授業を教えに来てくれるとか、その逆。どの教科でそれをやろうかというようなものも、目的、やり方についても、負担がどの程度かかるのかとか、そういったものも細かく見ながら、どういう形でやっていこうかというのを検討していくところです。

山本委員 福江高校の学生が減っていることに関係があるのですか。

学校教育課長 福江高校をもっと魅力のある地域の高校としていきたいというのは私たちが願っていることで、そういった中の一つの形として、中高連携型の一環校のようなこともすばらしいのではないかと思います。

山本委員

例えば田原中学校と成章高校で何か連携してやるということは、あり得るのですか。

教育長

今のところは、それは、また別です。

福江の中高一貫について、話し合いを進めながら、どうしていくかを、これから5年間かけてやっていきます。

図書館長

一つ関連ですみません。愛知県教育委員会の事業で、実は本年度から、高校と図書館の連携事業が始まっています。それは福江高校と渥美図書館の連携で、実質的には、ほぼそれしかないというような感じで、この間、福江高校の人が図書館を運営しているので、県の発表会で発表してくれまして、これから渥美図書館でどんどんバックアップして進めていくことになっておりますので、関連として報告します。

教育長

ぜひ半島に、スポーツの風も吹きますし、文化の薫りも漂って、魅力ある渥美半島になったらいいかなと本当に願うところですので、何とかいい形で進むように御理解、御協力をお願いします。

では、本日の議事等全て終了いたしました。

御協力ありがとうございました。

これをもちまして、第3回田原市教育委員会定例会を閉会します。お疲れさまでした。

閉 会 午後4時05分